

広い範囲に生息するヤマトオサガニ

■干潟に広く分布するヤマトオサガニ

今回の調査では、潮が大きく引いていたため普段は水中になっている範囲を調査することができた。その結果、広い範囲にヤマトオサガニが生息していることが確認できた(Fig.1~3)。普段目することができる所では、狭い範囲にしか生息していないが、泥底の水中には多くのヤマトオサガニが生息している。



(Fig.1 ヤマトオサガニが生息する干潟)



(Fig.2 雄のヤマトオサガニ 鋏脚が大きい)



(Fig.3 雌のヤマトオサガニ 鋏脚が小さい)

■イシガレイは採集できず

先月の調査では8cm, 8.5cmの2匹しか採集できなかったイシガレイであるが、今回の調査では全く採集できなかった。8cmという全長は、これまでの調査で外海へ移動しておかしくないサイズである。イシガレイは十分成長して外海に移動したと考えられる。

なお、ヒラメの稚魚を4匹採集した。一般に「左ヒラメの右カレイ」といわれ、目の位置で区別されることが多いが、「ヒラメの方が口が大きい」「ヒラメの尾びれの先は角張っている」などの違いがある。



(Fig.4 イシガレイ)



(Fig.5 ヒラメ)